

みんなちがって、みんないい

安城中部小学校長 稲留 雄一

いつの間にか、朝夕が過ごしやすくなってきました。セミの声も聞かれなくなり、秋の訪れをそこはかたなく感じられるようになりました。そういえば、今年はツクツクボウシの声を聴いていないように感じます。アブラゼミの姿をあまり見なくなったように、ツクツクボウシも珍しいセミになってきたのでしょうか。日本らしい四季の移り変わりは続いているのですが、その様子に目や耳を凝らしてみると、知らないうちに変化しているのではないかと、さみしいような、ちょっと怖いような気持ちになりました。

8月8日には南海トラフ地震臨時情報も発表されました、手探りで対応しなければならない情報でした。各ご家庭ではどのような対応をされましたか。店舗では保存用も含め、水の購入が難しくなった時期もありました。「臨時情報は結局空振りで、何の役にも立たなかった」のではなく、地震や台風への備えをそれぞれが見直す良い機会になったのだと、前向きにとらえるほうが、将来の備えとしては重要なのではないのでしょうか。

さて、いよいよ2学期の始まりです。元気な子どもたちが中部小学校に戻ってきます。どんな思い出を聞かせてくれるのでしょうか。楽しみです。夏休みの思い出をエネルギーに、2学期の子供たちの成長を心から願っています。長い夏休み、保護者の皆様にとっては、ご苦労も多かったことと思いますが、日常が戻ってきます。ご家庭と学校とで手を取り合って、子どもたちの成長を支えてまいりましょう。

右は、童謡詩人である金子みすゞさんの代表作の一つです。長い長い2学期。たくさん学び、たくさん遊び、大きく育っていくであろう子どもたち。スポーツフェスティバルでは、きっと子どもたちは輝く姿を見せてくれることでしょう。走ることやダンスが得意な子どもにとっては、大活躍の場です。自分の得意を思い切り伸ばすチャンスです。中には運動が得意でない子どももいます。その子にとってスポーツフェスティバルは、友達を応援する素晴らしさを学ぶ場であり、学校全体のために、準備してきたことの成果を出す発表の場であり、友たちの活躍や頑張りをたたえることの尊さを実感できる場です。何よりも一つのことをみんなでやり抜くことの苦労や充実感を実感できる場です。

一人一人の子どもたちは、その輝き方も違い、輝く場面も違い、輝くタイミングも違います。でも、その輝きはどれも尊いものであり、どんなに小さな輝きも支えていくことが、子どもたちの成長へとつながっていくと信じています。

学習でも、遊びでも、どんな場面でも、みんなの得意が違うから面白い。いろいろな見方や考え方があからこそ、新しい未来を創っていけるのではないのでしょうか。

『私と小鳥と鈴と』
私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面（じべた）を早く走れない。
私が体をゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄は知らないよ。
鳥と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。